

寿都町

1327 大野亮太

1. 寿都町の概要

1.1 「寿都町」の名前の由来

アイヌ語の地名「スツツ」に由来する。永田方正氏が著した『北海道蝦夷語地名解』によると語源は「シュプキベツ」で「矢柄に用いる茅のある川」を意味するという。

1.2 町章とカントリーサイン

町章は 1965 年、町村合併 10 周年を記念して制定された。4 稜星は「す」を図案化したもので十字形によって合併 4 町村の固い結束を示している。この十字は平和と正義を象っており、その先端を尖らせたのは将来への強い発展を示している。また外側の円は「すつつ」の「つ」を図案化し、寿都湾の地形と円満融和を表現している。

また寿都町は自治体として全国初の風力発電所を建設していて風力発電の町で有名だが、カントリーサインはその最初の風力発電所を描いている。

1.3 町のシンボル

寿都町では木・花・鳥のシンボルが定められている。木は「桜」、鳥は「カモメ」、花は「浜茄子」となっている。

図 1 寿都町町章



出典：寿都町 HP

図 2 カントリーサイン



出典：北の道ナビ HP

図 3 寿都町の木「桜」



出典：寿都町 HP

図 4 寿都町の鳥「カモメ」



出典：寿都町 HP

図 5 寿都町の花「浜茄子」



出典：寿都町 HP

1.4 寿都町の地勢

北緯 42.80° 東経 140.22° に位置している。日本海側に面しており、海からの風が強いために風力発電が盛んだ。札幌市から約 150 km の位置にあり、車でおよそ 3 時間である。東西 14 km・南北 23.5 km で総面積は 95.39 km²。寿都湾を弓状に形成しており、土地はほとんどが原野、山林である。

図 6 寿都町の位置



出典：寿都町 HP

1.5 寿都町の歴史

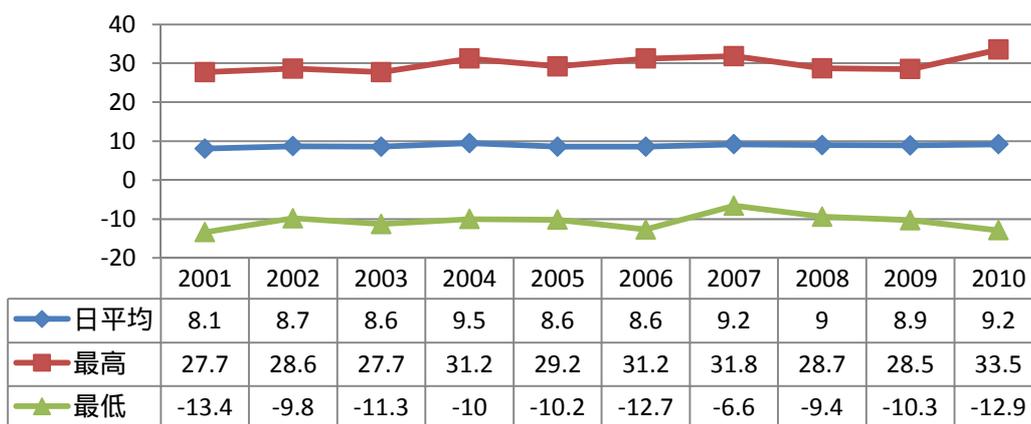
寿都町の歴史は古く、江戸時代の 5 代将軍である徳川綱吉の時代である 1688 年に寿都地方に土着する者が増え始めたのが発端となる。1869 年には寿都郡・歌棄郡・磯谷郡など後志 17 郡が設定され、1872 年、函館支庁の所轄となる。1897 年、新たに寿都支庁が置かれて寿都・歌棄・磯谷・島牧の 4 郡を管轄におく。しかし 1910 年にこの寿都支庁を廃止し後志支庁の管轄となった。

その後は合併が行われるようになる。1933 年、近隣の村だった政治村が寿都町と合併し、さらに 1955 年には寿都町・樽岸村・歌棄村・磯谷村の 1 町 3 村が合併して新「寿都町」となり現在に至る。

2. 寿都町の気候

2.1 気温

グラフ1 日平均気温・最高気温・最低気温の推移
(平成13年～平成22年)

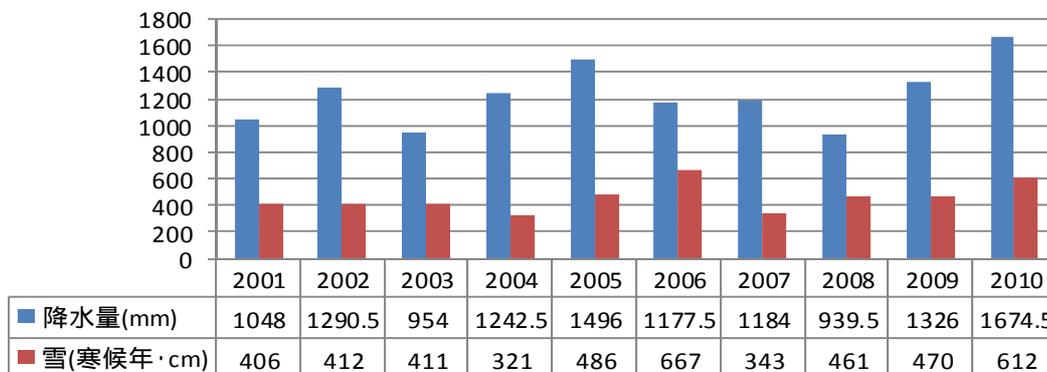


出典：気象庁 HP より筆者作成

寿都町の気温について見る。寿都町は日本海に面しており対馬海流（暖流）の影響を受けるため、グラフ 1 のような温和な気候状況が成立している。

2.2 降水量

グラフ2 年間降水量・降雪量の推移(平成13年～平成22年)



出典：気象庁 HP より筆者作成

寿都町の降水量を見てみると、年によって多い時もあれば少ないこともあることが伺える。ここで注目したいのは、周期的に降水量が多くなっている年があることだ。次に降雪量を見てみる。降雪量においても年によってばらつきがあることがわかる。ただ降水量が高ければその年の降雪量も高いということではないようだ。

2.3 風

寿都町の気象上の最大の特徴は風が強いことである。表を見るとわかるように、一貫して風が強く、最大瞬間風速においては 20m/s 後半から 30m/s 前半とかなり強い風が吹くことがあるということがわかる。対馬海流の影響を受けてこのように風が強い状態になっていると考えられる。このことから、対馬海流は寿都町に温和な環境をもたらす反面、風が強い状態を作り出しているということがわかる。

表1 寿都町の風速

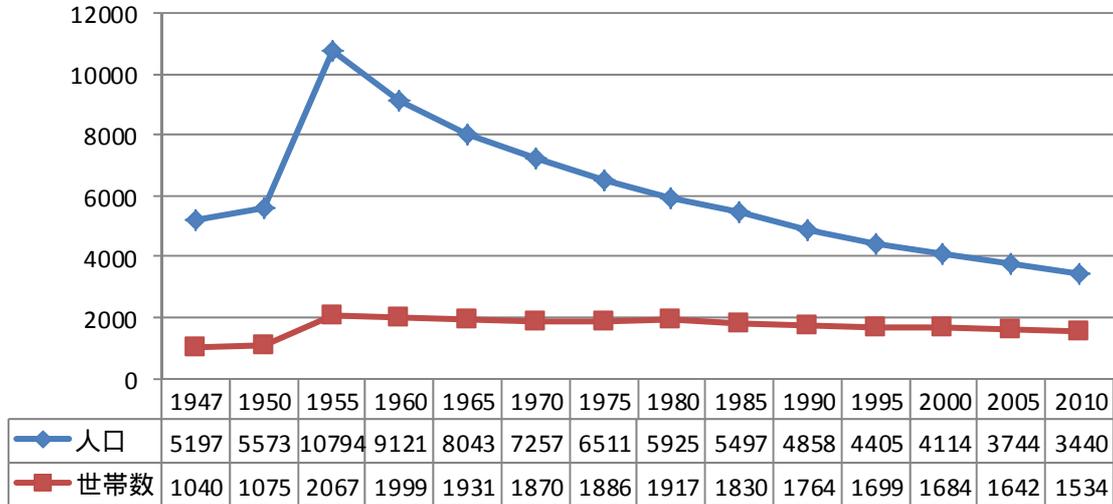
	風速(m/s)		最大瞬間風速
	平均	最大	
2006	3.5	13.5	28.1
2007	3.2	18.4	34.4
2008	3.6	16	25.6
2009	4.4	18.7	30.9
2010	4	18.3	29.8

出典：気象庁 HP より筆者作成

3. 人口総数と世帯数の推移

寿都町の人口を見ると、1955年の10794人を契機に減少していることが読みとれる。そして2010年は3440人となっている。世帯数においても1955年の2067世帯あるのが最高値であるが、2010年には約500世帯減って1534世帯なので1世帯あたりの人口が約5.2人から約2.2人と減っている。この結果から、寿都町で少子化が進んでいることがいえるだろう。

グラフ3 寿都町の人口と世帯数の推移

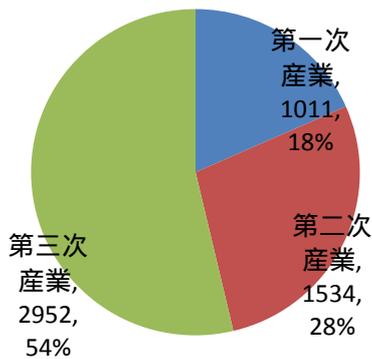


出典：総務省統計局「国勢調査」1947年～2010年分より筆者作成

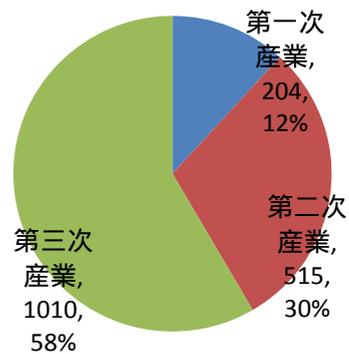
4. 寿都町の産業

4.1 産業別労働人口

グラフ4 1985年の産業別労働人口



グラフ5 2010年の産業別労働人口



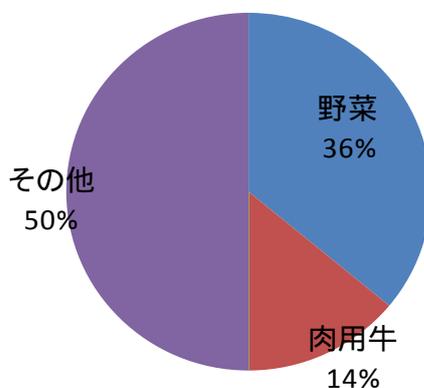
出典：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

出典：総務省統計局「国勢調査」より筆者作成

ここで寿都町の産業別労働人口を1985年と2010年で比較してみる。ここで分かるのが、人口は減少しているものの産業別人口の割合はほぼ変化がないということだ。だが絶対数の減少から第一次産業の人口の減少は深刻である。

4.2 農業産出額

グラフ6 農業産出額の内訳(2006年)



出典：農林水産省 HP より筆者作成

上のグラフは2006年における農業生産額の内訳である。寿都町における2006年の農業産出額の合計は約1億4000万円である。その中でも最も多いのはその他を除くと野菜であることがグラフから見て取ることが出来る。なおその他の内訳としては雑穀、豆類、工芸農作物などが含まれてくる。

4.3 漁業

寿都町は日本海沿岸に位置していることから漁業が盛んである。最高の漁獲量を誇っているのはほっけである。ほっけは数・金額ともにトップである。

寿都町は昔、豊富なニシンを背景に漁業が発達してきた。しかし、ニシンの減少とともに定置網・刺網量が減退、沖合漁業などに移行してイカ釣り・すけとうだら・マス延縄の水揚げが盛んになった。その後200海里問題以降は沿岸漁業が盛んに行われ、さらに栽培漁業の展開を図ったため、漁業量は年々増加傾向にある。

表2 魚種別漁獲量上位5種(2009年)

魚名	漁獲量(t)	金額(千円)
ほっけ	7246.9	274484
ほたて	285.8	42764
さけ	246.6	81567
いか	190.3	47333
たこ	85	32755

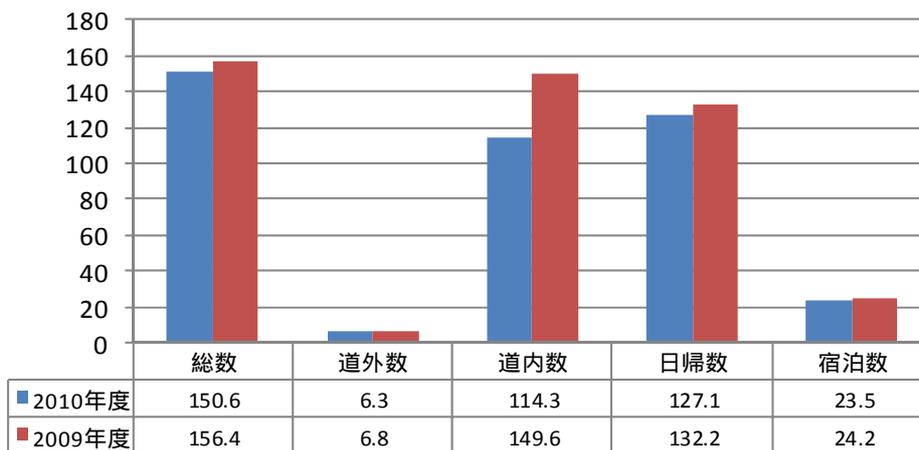
出典：寿都町 HP より筆者作成

凡例 黄...魚類 赤...水産動物 青...貝類

5. 寿都町の観光

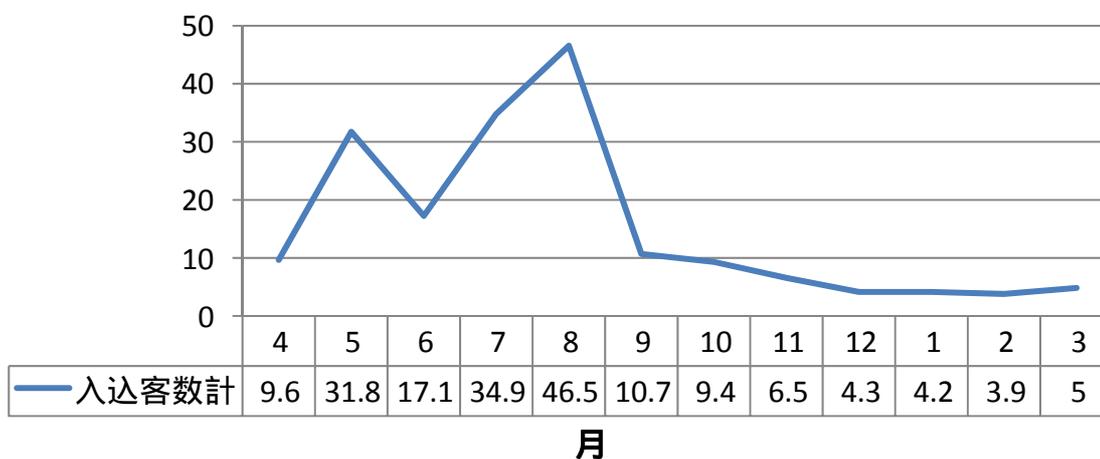
5.1 観光入込客数

グラフ7 観光入込客数の比較（2010年度・2009年度）（単位：千人）



出典：北海道後志総合振興局 HP より筆者作成

グラフ8 月別観光入込客数の推移（単位：千人）



出典：北海道後志総合振興局 HP より筆者作成

寿都町の観光入込客数を見る。2010年度と2009年度で比較してみると観光客数が減少傾向にあることがわかる。内訳を見ると道内外問わず落ち込み気味であり、日帰り、宿泊数も落ち込んでいることがグラフから読み取ることが出来る。この観光客の減少に歯止めをかけるべく、多様なイベントや観光地を用意している。

また、月別の観光入込客数を見てみる。グラフを見てわかるとおり、8月の観光入込客数が最大値を示しているため、寿都町は夏型の観光ということが出来る。

5.2 観光名所

5.2.1 みなとま～れ寿都

みなとま～れ寿都は、2008年にオープンした寿都町の道の駅である。寿都漁港に隣接しており、漁港を一望できることを生かした「海と一体感」ある建物となっている。また、弁慶岬から磯谷までのルート(追分ソーランライン)は歴史的建造物などがあり、海を見ながらドライブできる湾岸ルートになっている。

図7 みなとま～れ寿都



出典：北の道の駅 HP

5.2.2 弁慶岬

寿都町には、とある伝説がある。鎌倉時代、源頼朝は弟である義経を死に追いやったことで知られており、またそれは史実だ。その際には義経の家来である武蔵坊弁慶ももちろん亡くなっている。だが寿都町には、弁慶は実は傷つきながらも生き延び、そして寿都湾に流れ着いたのだという伝説が残っているのだ。そして弁慶は傷を癒し、再起を決意、毎日のごとくとある岬に立ち海を眺めていたのだという。この伝説が由来となり、その岬を弁慶岬と呼ぶようになった。

図8 弁慶岬



出典：寿都町 HP

弁慶岬には次の3つの場所がある。この岬で義経を待ったといわれる弁慶の像とともに1890年に建設された灯台、弁慶がアイヌ民族たちと相撲をとったと言われる土俵跡、弁慶に投げ飛ばされた人の鼻血で赤く染まったと言われる赤岩である。ちなみにアイヌ語の「先端が裂けたような」という意味の「ペルケイ」が弁慶に訛り、義経伝説にからめられたと言われている。

5.2.3 寿都温泉ゆべつのゆ

寿都温泉ゆべつのゆは広々とした大浴場で、ジャグジー・露天風呂・打たせ湯・寝湯等の様々な浴槽がある。泉質は含銅ナトリウム・カルシウム塩化物泉で、神経質・筋肉痛・五十肩・疲労回復等多くの症状に効果があり、心と体のリフレッシュに適していると言えるだろう。

図9 寿都温泉ゆべつのゆ



出典：寿都町 HP

5.2.4 鯨御殿

寿都町には鯨御殿という建物が存在している。鯨御殿は一般的に網元や漁師の寝泊りのことを指すが、図10は「仕込屋」(網元や漁師に品物や金を貸し、代金を数の子、身欠鯨、鯨粕等で返済

図10 鯨御殿



出典：寿都町 HP

してもらってこれを売る商売)として商売していた橋本家の建物である。

5.3 イメージキャラクター「風太」

風のまち「すつつ」にふさわしく空飛ぶ妖精をモチーフに、体いっばいに風をうけ、髪をなびかせたわんぱく坊主をイメージし平成4年に考案されたのがこの「風太」である。デザインは寿都町出身の漫画家である本庄敬氏が行った。愛称においては町内外から公募し約800通の中から、「やんちゃな感じがぴったり」、「親しみやすい」、「覚えやすい」などの理由から「風太」となった。

図11 「風太」



出典：寿都町 HP

6. 風力発電

寿都町は前述した気候の関係上、風力発電がとても盛んである。ここではいくつか風力発電所を例に出し、寿都町の風力発電の魅力を伝えたいと思う。

6.1 寿都発電所

オイルショックなどの影響により公共機関の暖房などを見直すなどの動きの中、風力発電施設建設の計画が浮上した。こうして建設されたのが寿都発電所である。また寿都発電所は全国自治体では初の風力発電所であった。当時は台数制御運転を余儀なくされたこともあり、発電量はさほど多いものではなかった。しかし、1992年に自家発電余剰分を買い取ることが決定され、台数制御運転も必要がなくなり、風力発電の有効性が確認されるようになった。

しかし主要システムの老朽化などが進み、2006年4月1日に廃止となってしまった。

図12

寿都温泉ゆべつのゆ風力発電



出典：寿都町 HP

6.2 寿都温泉ゆべつのゆ風力発電

寿都発電所は廃止されたが、新たなもので風力発電は今も続けられている。

温泉に隣接する農村活性化センター「風彩」への電力供給のために建設されたのがこの風力発電所である。入念に調査等を行った結果、隣接する農村公園(風太公園)に風車を1台設置した。現在も順調に稼働しており、当時の発電計画を上回るほどの稼働率を見せている。

図13 風太風力発電所



出典：寿都町 HP

6.3 風太風力発電所

2007年10月から稼働を開始し、寿都湾沿岸に沿って歌棄地区に五基の風車が設置されている。名称はもちろん寿都町のマスコットキャラクターである風太にちなんでいる。

参照ホームページ

- ・ 寿都町 HP : <http://www.town.suttu.lg.jp/>
- ・ 気象庁 HP : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ 総務省統計局 HP : <http://www.stat.go.jp/index.htm>
- ・ 北の道ナビ HP : <http://northern-road.jp/navi/>
- ・ 北海道後志総合振興局 HP : <http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/>
- ・ 北の道の駅 HP : <http://www.hokkaido-michinoeki.jp/index.html>
- ・ 農林水産省 HP : <http://www.aff.go.jp/>